

【実践報告】

「試す」を楽しむステンドグラスの教材開発

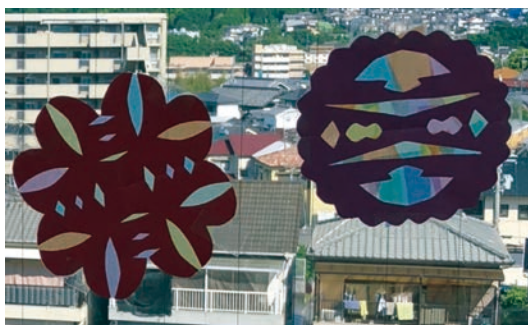
——親子造形教室での実践を通して——

山本将之*

キーワード：造形表現 幼児造形 子どもの表現 ステンドグラス

1 はじめに

光を楽しむ図工題材として人気のステンドグラスの制作では、「切り紙技法」を用いることが多い。切り紙とは、折った紙の切り方を工夫することで、穴の空いた模様をつくる技法であり、この穴にセロファンを貼るだけで容易にステンドグラスを模した装飾が完成する【写真1】。



【写真1】切り紙ステンドグラス

切り紙技法を用いること無くステンドグラスを制作する場合には、カッターの使用が不可欠となり、必然的に複雑な道具の操作が求められる。このような理由から、教育現場ではステンドグラスの制作に切り紙技法を用いることが多い。

一方で「切り紙ステンドグラス」には、子どもの深い学びを妨げうる懸念が2点ある。1つ

*大阪大谷大学教育学部

目の懸念点は形の追求の難しさである。切り紙の特性ゆえに非対称の形の追求が難しく、ゆえに子どもの作品は左右対称の形に留まる傾向を有する。2つ目の懸念点は、紙に貼ったセロファンを剥がすことが難しい点にある。これにより色を扱うプロセスにおいて、セロファンを「貼って剥がして考える」という試行錯誤の余地が失われてしまう。

以上の懸念点を解決するために、筆者は①「形を試す過程」、②「色を試す過程」を重視する新規性の高い「ステンドグラス教材」を開発した。本稿ではこの制作方法と、実践の結果を報告する。

2 形を「試す」過程

切り紙の対称性から脱却するため、クリアファイルとビニールテープを使用した。以下に、形を「試す」過程を順に記す。

①白い紙にマジックで下描きを描く【写真2】。

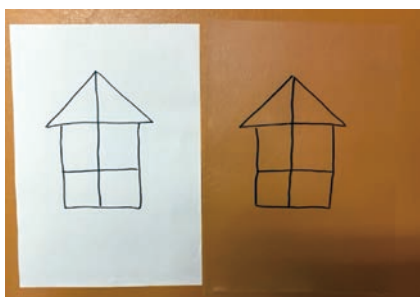


【写真2】 白い紙に描いたマジックの下描き

②下描きをクリアファイルに写す【写真3-4】。

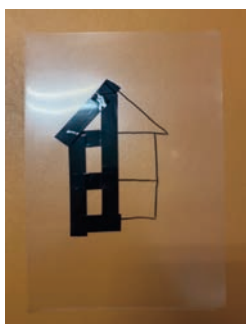


【写真3】 クリアファイルを白い紙に重ねて、下描きをマジックでなぞる。
この際、下描きから線がはみ出ても良い。



【写真4】下描きとクリアファイルを横に並べた図

③下描きに沿ってビニールテープを貼る【写真5-6】。



【写真5】下描きに沿ってビニールテープを左側のみに貼った



【写真6】下描きに沿ってビニールテープを図貼り終えた図

3 色を「試す」過程

糊等で貼ったセロファンを切り紙ステンドグラスから剥がそうとすると、糊成分と相性の良い紙が破れる可能性がある。そのため切り紙ステンドグラスでは、一度貼ったセロファンを別の場所に貼り替えることが難しい。この操作の難しさによって、切り紙ステンドグラスの色を扱う過程では、試行錯誤の機会が失われやすい。

以上の課題点を改善するため、セロファンを「貼って剥がす」ことのできるセロハンテープを使用する。下地となるクリアファイルはテープを何度も貼り直すことのできる性質を有している。そのためクリアファイルとセロファンを用いる方法であれば、切り紙ステンドグラスとは異なり、活動の中に試行錯誤のプロセスを介入することが可能となる。

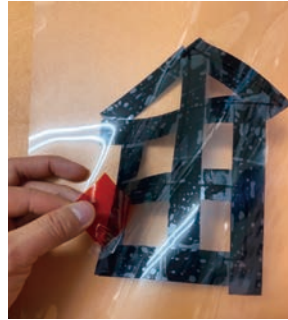
以下に、色を「試す」過程を記す。

①ビニールテープを貼った面が下になるよう、クリアファイルをひっくり返す。クリアファイルをひっくり返すことで、完成後にセロハンテープの跡が目立ち難くなる。

②セロハンテープでセロファンを貼る。貼って剥がせるため、貼りながら色を置く場所を考えることができる【写真 7-11】。



【写真 7】 セロファンを貼った図



【写真 8】 セロファンを剥がしている図



【写真 9】 セロファンを貼り直した図



【写真 10】 完成図（裏面）



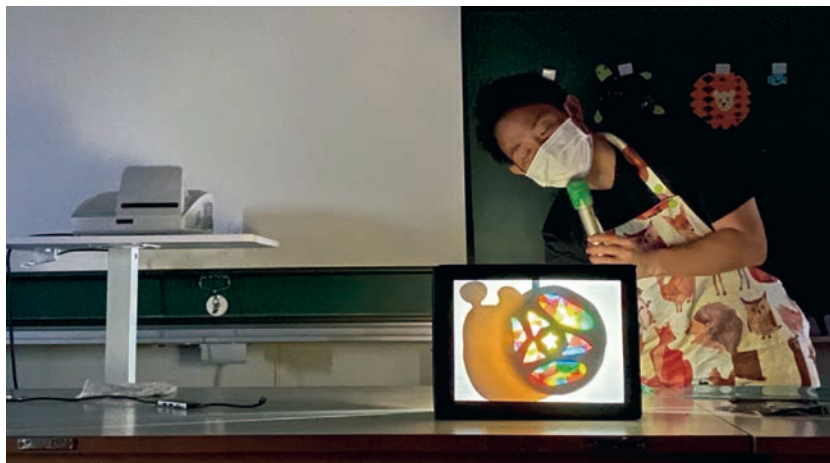
【写真 11】 完成図（表面）

4 実践の成果

大阪大谷大学教育学部教育学科が主催する「親子で楽しむ造形教室」では、毎年地域の家族

を招待し、親子で造形活動を楽しむ機会を提供している。当造形教室で実践した、新規性の高い「クリアファイルステンドグラス」の成果と課題を記す。

導入として、ステンドグラスを用いた光のクイズを出題した【写真12】。



【写真12】導入で実施した光のクイズ

最初は簡単な形からクイズを始め、最後は「色々なものに見える形」を出題することで、「どんな形を作っても良いんだ」という気持ちを促した【写真13】。



【写真13】光のクイズで使用した「色々なものに見える形」

また導入で光を用いることで、「自身が作るステンドグラスはどのような影になるのか」という疑問を持ちながら制作に臨めるよう、意識付けを行った。

制作過程では、直接ビニールテープを貼るのではなく、下描きを基にビニールテープを貼ることができるよう配慮したため、自身が思い描く表現を追求できているように感じられた【写真14】。



【写真14】 下描きに沿ってビニールテープを貼ろうとしている様子

また下描きの線の太さに合わせてビニールテープを細く切る姿【写真15】も見られ、切り紙ステンドグラスとは異なり、形を突き詰める姿が確認できた。



【写真15】 細く切ったビニールテープを生かした表現

セロファンを貼る過程でも、想定通り何度も貼り直す姿が確認できた。またクリアファイルであるからこそ、黒い枠の無い箇所にもセロファンを貼ることができていた【写真16】。



【写真16】 セロファンを何度も貼り直す様子

制作を終えると、部屋を暗くし、ステンドグラスを天井に向けてライトを照らした【写真17-19】。ライトをステンドグラスに近づけると、天井に小さくはっきりと色と形が写り、遠ざけると形が大きくなる光の不思議さに、参加者からは驚きの声が聞かれた。

「試す」を楽しむステンドグラスの教材開発



【写真 17-19】ステンドグラスをライトで天井に写す様子

最後の鑑賞では、参加した子ども全員から「ビニールテープを取ったり付けたりできて楽しかった。」「色が重なって不思議だった。」等の満足感の高い言葉を聞くことができた【写真 20-21】。



【写真 20-21】ステンドグラスを他の受講者に紹介する様子

5 おわりに

本稿では、①「形を試す過程」、及び②「色を試す過程」を含む新規性の高い「ステンドグラス教材」を開発し、その制作方法と実践の成果をまとめた。実践の結果、従来の「切り紙ステンドグラス」と異なり、「クリアファイルのステンドグラス」【写真 22-23】では集中して形や色を追求する子どもの姿が確認できた。



【写真 22-23】多様な形を追求できるクリアファイルを用いたステンドグラス

手作りのステンドグラスは日光に当て続けると糊の成分が収縮し、時を経ると丸く反ってしまう等の細かな検討課題を有する。他方で巨視的に本実践を概観すると、開発した教材には主体性や試行錯誤の要素が含まれており、この点において幾許かの成果を見たのではないかと考える。今後も「製作」のニュアンスの強い題材開発であっても、「子どもの自由さ」を保証する造形教材を提案していきたい。